

活動完了報告

イタリアでのオペラフェスティバル出演とコンクールへの挑戦

新田壮人

≪報告および成果≫

フランコ・ギッティオペラ国際コンクールについて

このコンクールでは、イタリアの発声法と本番前の自分のルーティンを再確認できた機会でした。

コンクール前、私の師であるソニア・テドラ氏のレッスンを受けた時に、「ア母音が広がっているから、安定した息を出すことと発音することだけを考えて歌ってみて」というアドバイスをいただき、自分が思っているよりも「音」に意識がいきすぎていたことに気がつきました。そこからヒントを得て、コンクール演奏前は発声の確認を控えめにして、発音練習を通して詩の流れをひたすら確認しました。地道な練習の成果が出たのか、本番ではいつもより曲の流れを楽に感じながら楽しく演奏することができ、結果としてコンクールでは第4位を受賞致しました。

ピッコロ・オペラ・フェスティバル（バロックコンサート）について

ウーディネでのバロック・コンサートでは、気の合う仲間たちと一緒に、各々持ち寄った1番のレパートリーを演奏し、純粹に音楽の楽しさを噛みしめるいい機会となりました。

会場は、野外の緑生い茂る綺麗な広場だったこともあり、いつもよりも開放的に演奏することができました。お客様も皆温かくとても満足そうに聴いてくださり、こちらも嬉しい気持ちになりました。仕事やコンクール等では忘れがちである、「どんな場所でも音楽を伸び伸び楽しむこと」の初心を思い出させてくれました。

ザンドナーイオペラ国際コンクールについて

最後に、リッカルド・ザンドナーイオペラ国際コンクールではただ自分を信じて、上記のフランコ・ギッティオペラ国際コンクールとウーディネでのバロックコンサートで学んだことを全てぶつけようと思い、挑みました。

前日は自分のコンディションを冷静に見て、今できることをノートにまとめました。

本番は伴奏者と一緒にただ音楽に入り込むことを意識したところ、3ラウンドで自分の今持てる全てを出し切ることができ、第2位を受賞致しました。

また、今回予選とファイナルで歌ったグルック作曲「オルフェオとエウリディーチェ」のオルフェオのアリアを、受賞者コンサートでオーケストラと一緒に演奏することができて、とても幸せでした。

コンクールの期間中、各国からやってきた受験者たちと同じ宿に泊まるため、各国の音楽事情の情報交換をすることが出来たり、空き時間も有意義に過ごすことができました。さらに、審査員のフェニーチェ劇場やマッシモ劇場の関係者ともコンクール終了後に話をする事ができ、たくさんのご縁に恵まれました。

《今後の課題》

今後もっと自分の可能性を信じて積極的に未知の世界に挑戦していき、1人の音楽家として自立することが、今の私の課題です。みんなと同じ道で同じことをしていても、この音楽業界を動かせるような存在にはなれないと思うので、これまで通り日本での音楽活動は続けつつ、これからも定期的にヨーロッパへ行きたいと考えております。

具体的には、オペラ市場が盛んなドイツ圏、近年カウンターテナーのオペラ活動が盛んなスウェーデンなどで、今後オペラの仕事の幅を増やしていきたいと考えています。特にドイツ圏では、グルック作曲歌劇「オルフェオとエウリディーチェ」のオルフェオ役、モーツァルト作曲歌劇「ポントの王ミトリダーテ」のファルナーチェ役を演じてみたいです。そのために、これから少しずつ英語・ドイツ語を習得していくことも課題の一つです。

また、イタリアの劇場でもオペラを歌いたい気持ちがあり、フェニーチェ劇場でヴィヴァルディのオペラに、ポンキエッリ劇場でモンテヴェルディ作曲歌劇「ポッペアの戴冠」のオットーネ役としていつか出演してみたいです。その時のために、イタリア語会話・発音と演劇法をさらに磨きたいと思います。

今回の活動を通して、自分が積み重ねてきたもの・自身の意志でしっかり決めたことには、必ず何かしらの結果がともなうと確信できたので、今後も常に新しいことに挑戦する気持ちを忘れず、自分だけにしかできない音楽家としての道を邁進していきたいです。

